

上場会社名 株式会社モブキャストホールディングス 上場取引所
 コード番号 3664 URL <https://mobcast.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役CEO (氏名) 藪 考樹
 問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO (氏名) 岡田 晋 (TEL) 03-5414-6830
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績(2023年1月1日~2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	2,584		△229	—	△234	—	△194	—
2022年12月期第3四半期	2,690	—	△296	—	△325	—	△336	—

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 △189百万円(—%) 2022年12月期第3四半期 △354百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	△4.36	—
2022年12月期第3四半期	△9.60	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、2022年12月期第3四半期は潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、2023年12月期第3四半期は1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	2,813	562	19.24
2022年12月期	3,170	751	23.19

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 541百万円 2022年12月期 735百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年12月期の配当予想につきましては、現在未定です。

3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	3,540	△1.3	△290	△18.1	△300	△23.5	420	—
	~3,580	~△0.2	~△210	~△40.7	~△230	~△41.3	~480	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社(社名) - 、除外 -社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期3Q	44,638,408株	2022年12月期	44,638,408株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	株	2022年12月期	株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期3Q	44,638,408株	2022年12月期3Q	35,079,365株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算説明資料は、当四半期は開示する予定はありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12
3. その他	17
継続企業の前提に関する重要事象等	17

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、経営資源をグループIPビジネス（価値創造・価値拡大）へ集中させる方針の下、企業実態を正確に表した3つの事業セグメント（①デジタルIP領域（旧モバイルゲーム事業）、②ライフスタイルIP領域（旧キッチン雑貨事業）、③IP投資育成領域）にて、企業価値の最大化を目指してまいります。

デジタルIP領域（旧モバイルゲーム事業）

株式会社モブキャストゲームスは、デジタルIP領域において「IPプロデュース」「IP創出」を成長戦略の中心に据え、国内外でゲームタイトルやアラームアプリ等のコンテンツを配信してまいりました。そして2023年は、ますます進化するテクノロジーに合わせて、これまでのモバイルゲームに加え、メタバースのようなバーチャル空間やWeb3.0に受容されるオリジナルIPを創出していくことを新たに成長戦略の軸とし、本年2月1日付で社名を株式会社X-VERSEに変更いたしました。

当第3四半期連結累計期間におきましては、既存事業であるライセンスIP事業（旧：IPプロデュース事業）としましては、2023年1月に「炎炎ノ消防隊 炎舞ノ章」を新たに配信し、初回30万ダウンロード数を突破、Appleが運営するダウンロードサービス「App Store」において無料ゲームランキング1位を記録し好調なスタート切ることができました。しかし、リリース後に発生した不具合の影響もあり、売上高は伸び悩み当初の予想を下回る結果となっております。そのことを踏まえ、お客様にゲームを楽しんでいただける様、不具合の解消及びゲーム内コンテンツの改善を図る他、アニメ「ソウルイーター」「東京リベンジャーズ」とのコラボレーション企画を実施、今後も新たなコラボレーション企画を計画する等売上改善に努めております。この他、テレビアニメ「リコリス・リコイル」のキャラクターのアラームアプリを配信し、有料アプリ（Apple及びGoogle）ランキングで1位を記録することができました。また、新たなチャレンジとして展開しているオリジナルIP事業（旧：IP創出事業）につきましては、「Webtoon・電子漫画」としてこれまでに1タイトル、「VTuber」プロジェクトとしてこれまで4人のバーチャルYouTuberを配信し、新たな領域での可能性を模索しております。この他に既存のゲームタイトル、イラスト等が下支えとなり、売上高は486,402千円（前年同四半期は621,071千円）、営業損失は21,133千円（前年同四半期は営業利益7,609千円）となりました。

ライフスタイルIP領域（旧キッチン雑貨事業）

ライフスタイルIP領域である株式会社ゆとりの空間は、雑誌やテレビ等のメディアでなじみ深い料理家の栗原はるみ氏が「暮らしを楽しむコツ」や「ライフスタイル」をオリジナルの食器やキッチン雑貨、調味料、エプロン、ウェア等にて提案する生活雑貨ショップ「share with Kurihara harumi」を全国の百貨店で展開、加えてECサイト、アウトレット等で同製品を販売してまいりました。また、同じく料理家である栗原心平氏によるこだわりの商品、厳選した地方の食品を販売するオンラインショップ等の「ごちそうさまブランド」事業にて新規顧客の獲得を推進。加えて、栗原はるみ氏、心平氏による企業様へオリジナルレシピの提供や共同開発等のプロデュース事業や出版物のIPコンテンツ事業に力を入れております。

当連結会計年度は、「自社ECサイト及び百貨店のアップデート→ワクワク空間の創造」「フレキシブルなものづくり体制の確立」「『食』に関わる新規事業の創出」「マーケティング・ブランディング強化」の4つの成長戦略を新たに掲げ、更なる成長を目指してまいります。

当第3四半期連結累計期間は、4つの成長戦略の1つである「ワクワク空間の創出」につきましては、「share with Kurihara harumi」を栗原はるみ氏監修の下、同氏の世界観を反映させた店内ディスプレイに改装し、お客様が楽しみながら買い物ができる空間を提供しております。経済活動が回復基調になり既存店売上高がコロナ禍前の水準に戻りつつある中、従前から実施している不採算店舗の撤退による収益力改善の効果が影響し、一店舗あたりの売上高及び坪効率は直近の5事業年度において最高値を達成することができました。現在は店舗での買い物によって得られるポイントとECサイトでの買い物によって得られるポイントの共通化を進める等、実店舗、ECサイトそれぞれにおいて売上伸長を目指しております。また、「『食』に関わる新規事業の創出」として、エスビー食品株式会社、オイシックス・ラ・大地株式会社、雪印メグミルク株式会社から発売された商品に関連するプロデュース事業及び2023年9月に発売されたパーソナルマガジン「『栗原はるみ』 vol. 5」等の出版物IPコンテンツ事業におけるロイヤリティ収入も好調で、全体の売上高に寄与しております。

これらの要素を主軸に事業を展開しており、売上高は2,091,893千円（前年同四半期は2,064,970千円）となりました。加えて、「フレキシブルなものづくり体制の確立」として従来から進めている購買、在庫管理の徹底により売上原

価、販売費及び一般管理費における主要コスト削減の効果が継続しており、営業利益は23,085千円（前年同四半期は営業損失43,392千円）となりました。

IP投資育成領域（IP投資育成事業）

IP投資育成領域につきましては、第1四半期連結累計期間から関連会社のバックオフィス業務の支援及び個別プロジェクトのエージェント業務を行いながら、事業目的であるIPやその保有企業への投資を促進し、投資したIP企業の価値を高めて投資リターンを得ることを目指しております。当第3四半期連結累計期間の売上高は3,526千円（前年同四半期は3,250千円）となり、営業損失は42,161千円（前年同四半期は営業損失390千円）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの売上高は2,584,644千円（前年同四半期は2,690,533千円）となりました。また、営業外収益として「消費税差額」5,055千円等、営業外費用として「支払利息」16,476千円等を計上したことにより、経常損失は234,671千円（前年同四半期は経常損失325,033千円）となりました。さらに、特別利益として「事業税還付金」48,811千円を計上した結果、税金等調整前四半期純損失は185,860千円（前年同四半期は税金等調整前四半期純損失347,969千円）、四半期純損失は190,164千円（前年同四半期は四半期純損失355,206千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は194,713千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失336,597千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より357,552千円減少し、2,813,331千円となりました。これは主に、現金及び預金が119,327千円、受取手形、売掛金及び契約資産が63,026千円、商品及び製品が120,770千円、前払費用が29,011千円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より168,393千円減少し、2,250,686千円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が12,470千円、未払金が80,929千円、契約負債が14,077千円、前受金が27,373千円、その他のうち未払消費税等が27,233千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末より189,159千円減少し、562,644千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失194,713千円の計上より、利益剰余金が減少したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2023年11月10日付「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしましたものから変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	856,294	736,966
受取手形、売掛金及び契約資産	378,793	315,766
商品及び製品	434,453	313,683
前払費用	277,034	248,023
その他	50,724	33,840
流動資産合計	1,997,300	1,648,281
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	196,655	198,246
減価償却累計額	△72,139	△82,250
建物及び構築物（純額）	124,515	115,995
工具、器具及び備品	103,792	110,180
減価償却累計額	△92,067	△98,786
工具、器具及び備品（純額）	11,725	11,394
土地	800,000	800,000
その他	14,388	8,701
減価償却累計額	△7,439	△2,855
その他（純額）	6,949	5,845
有形固定資産合計	943,190	933,235
無形固定資産		
リース資産	33,800	27,716
その他	8,976	11,169
無形固定資産合計	42,776	38,885
投資その他の資産		
投資有価証券	126,858	131,553
その他	67,058	67,674
貸倒引当金	△6,300	△6,300
投資その他の資産合計	187,616	192,928
固定資産合計	1,173,583	1,165,050
資産合計	3,170,883	2,813,331

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	178,661	213,769
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	135,896	123,426
リース債務	10,667	10,667
未払金	235,913	154,984
未払法人税等	4,138	3,326
契約負債	16,207	2,129
前受金	265,400	238,026
その他	161,149	143,560
流動負債合計	1,208,035	1,089,891
固定負債		
長期借入金	1,059,240	1,022,260
退職給付に係る負債	27,974	32,466
リース債務	34,555	26,267
長期割賦未払金	35,931	26,699
繰延税金負債	53,343	53,102
固定負債合計	1,211,043	1,160,795
負債合計	2,419,079	2,250,686
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,488,650	100,000
資本剰余金	1,515,760	1,226,242
利益剰余金	△2,268,919	△785,463
株主資本合計	735,491	540,778
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△133	388
その他の包括利益累計額合計	△133	388
新株予約権	230	230
非支配株主持分	16,215	21,247
純資産合計	751,803	562,644
負債純資産合計	3,170,883	2,813,331

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年9月30日)
売上高	2,690,533	2,584,644
売上原価	1,261,202	1,181,722
売上総利益	1,429,330	1,402,921
販売費及び一般管理費	1,725,879	1,632,856
営業損失(△)	△296,548	△229,934
営業外収益		
受取利息	3	7
受取配当金	0	0
為替差益	60	37
受取賃貸料	5,400	5,400
消費税差額	—	5,055
その他	6,202	3,062
営業外収益合計	11,667	13,563
営業外費用		
支払利息	17,284	16,476
株式交付費	2,948	—
支払手数料	666	1,824
持分法による投資損失	7,767	—
その他	11,484	—
営業外費用合計	40,152	18,300
経常損失(△)	△325,033	△234,671
特別利益		
保険解約返戻金	16,704	—
事業税還付金	—	48,811
その他	360	—
特別利益合計	17,064	48,811
特別損失		
減損損失	5,084	—
固定資産除却損	240	—
貸倒損失	6,674	—
和解金	28,000	—
特別損失合計	40,000	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△347,969	△185,860
法人税、住民税及び事業税	7,237	4,545
法人税等調整額	—	△240
法人税等合計	7,237	4,304
四半期純損失(△)	△355,206	△190,164
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△18,609	4,548
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△336,597	△194,713

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△355,206	△190,164
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	375	—
その他有価証券評価差額金	△166	522
その他の包括利益合計	209	522
四半期包括利益	△354,997	△189,642
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△336,357	△194,190
非支配株主に係る四半期包括利益	△18,639	4,548

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、2015年12月期より8期連続して営業損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことから、継続企業の前提に関する疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。

当社グループは、足元の業績改善を進めることにより当該状況を改善するために、以下の施策を講ずることで、事業面につきましては収益の確保及び費用の削減を進めるとともに、財務基盤の一層の安定化に取り組んでおります。

事業・経営基盤の安定化

当社グループは、経営資源をグループIPビジネス（価値創造・価値拡大）へ集中させる方針の下、企業実態を正確に表した3つの事業セグメント（①デジタルIP領域（旧モバイルゲーム事業）、②ライフスタイルIP領域（旧キッチン雑貨事業）、③IP投資育成領域）にて、企業価値の最大化を目指してまいります。

デジタルIP領域（旧モバイルゲーム事業）

デジタルIP領域につきましては、「IPプロデュース」「IP創出」を成長戦略の中心に据え、その中でローリスクミドルリターンのプロデュース型モデルへの切り替え、戦略外及び不採算タイトルからの撤退、徹底したコスト削減等の収益改善を従来から行ってまいりました。当第3四半期連結累計期間においては、既存事業であるライセンスIP事業（旧：IPプロデュース事業）では2023年1月に新ゲームタイトル「炎炎ノ消防隊 炎舞ノ章」を配信し、初回30万ダウンロード数を突破、Appleが運営するダウンロードサービス「App Store」において無料ゲームランキング1位を記録し好調なスタートを切ることができましたが、リリース後に不具合が発生し、また、ユーザーを惹きつける内容のコンテンツを提供することができなかつた等の理由により売上高は当初の予想を大幅に下回る結果となりました。不具合の箇所を解消し、コンテンツの改善を図り、その他人気アニメとのコラボレーションを企画する等売上改善に努めてまいりましたが、十分な回復には至っていない状況が続いております。この他、既存タイトルの売上及び有料アプリ（Apple及びGoogle）ランキングで1位を記録した、テレビアニメ「リコリス・リコイル」のキャラクターのアラームアプリの配信売上、オリジナルIP事業（旧：IP創出事業）として「Webtoon・電子漫画」1タイトル、「MTプロジェクト」として4人のバーチャルYouTuberを配信しました。

現在はライセンスIPを使用したモバイルゲームだけでなく、進化するテクノロジーに対応し、メタバースのようなバーチャル空間やWeb3.0にインパクトを与える自社IP創出を加速することを新たな成長戦略の中核とし、エンターテインメントの潮流を見極め、VTuberや電子漫画など多様なジャンルでの自社IP創出にチャレンジする一方で、成長戦略に沿わないライセンスIP事業に対し経営資源の投入は制約していくと戦略的判断に至り、今般モバイルゲーム等のライセンスIPタイトルの一部を株式会社テンダに譲渡することといたしました。そして、電子漫画、VTuber・メタバース分野においてオリジナルIPの創出を模索し、メタバース・Web3.0時代に受容されるIPを創出することをチャレンジしてまいります。

ライフスタイルIP領域（旧キッチン雑貨事業）

ライフスタイルIP領域につきましては、「自社ECサイト及び百貨店のアップデート→ワクワク空間の創造」「フレキシブルなものづくり体制の確立」「『食』に関わる新規事業の創出」「マーケティング・ブランディング強化」の4つの成長戦略を新たに掲げ、キッチン雑貨「share with Kurihara harumi」を全国の百貨店及びECサイト、アウトレット等で販売する他、料理家の栗原はるみ氏、栗原心平氏による企業様へオリジナルレシピの提供や共同開発等のプロデュース事業及び出版物のIPコンテンツ事業に力を入れております。

当第3四半期連結累計期間においては、4つの成長戦略の1つである「ワクワク空間の創出」につきましては、「share with Kurihara harumi」を栗原はるみ氏監修の下、同氏の世界観を反映させた店内ディスプレイに改装し、お客様が楽しみながら買い物ができる空間を提供しております。経済活動が回復基調になり既存店売上高がコロナ禍前の水準に戻りつつある中、従前から実施している不採算店舗の撤退による収益力改善の効果が影響し、一店舗あたりの売上高及び坪効率は直近の5事業年度において最高値を達成することができました。現在は店舗での買い物によって得られるポイントとECサイトでの買い物によって得られるポイントの共通化を進める等、実店舗、ECサイトそれぞれにおいて売上伸長を目指しております。また、「『食』に関わる新規事業の創出」として、エスビー食品株式会社、オイシックス・ラ・大地株式会社、雪印メグミルク株式会社から発売された商品に関連するプロデュース事業及び2023年9月に

発売されたパーソナルマガジン「『栗原はるみ』 vol. 5」等の出版物IPコンテンツ事業におけるロイヤリティ収入も好調で、全体の売上高に寄与しております。加えて、「フレキシブルなものづくり体制の確立」として従来から進めている購買、在庫管理の徹底により売上原価、販売費及び一般管理費における主要コスト削減の効果が継続しており、営業利益の達成を下支えしております。そして、現在は将来のIPOに向けた準備期にあると捉え、4つの新たな成長戦略とともに今後事業に邁進してまいります。

IP投資育成領域

IP投資育成領域につきましては、IPやその保有企業への投資を促進し、投資したIP企業の価値を高めて投資リターンを得ることを目指してまいります。現在は関連会社のバックオフィス業務支援及び個別プロジェクトのエージェント業務収入が主な収入源ですが、この他に子会社事業に関係しない投資先の有価証券の一部譲渡を当連結会計年度中に予定しております。

財務基盤の安定化

財務基盤の安定化につきましては、前連結会計年度に実施した第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第34回新株予約権の発行による208百万円の資金調達、第33回新株予約権及び第34回新株予約権の行使による424百万円の資金調達を実施することができました。また、連結子会社である株式会社ゆとりの空間の株式の一部を譲渡したことで400百万円の資金調達をすることができ、当連結会計年度においても引き続き財務基盤の安定化に繋がっております。また、当連結会計年度においては、2023年2月13日付「資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分に関するお知らせ」にて開示しておりますとおり、資本金及び資本準備金の額を減少し繰越利益剰余金の欠損1,678百万円に補填いたしました。

しかしながら、今後の経済情勢等がこれらの施策に影響を及ぼし収益が計画どおり改善しない可能性があり、資金繰りに重要な影響を及ぼす可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提して作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	デジタルIP 領域	ライフスタ イルIP領域	IP投資育成 領域	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	621,071	2,064,970	3,250	2,689,292	1,241	2,690,533	—	2,690,533
セグメント間 の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	621,071	2,064,970	3,250	2,689,292	1,241	2,690,533	—	2,690,533
セグメント利益 又は損失 (△)	7,609	△43,392	△390	△36,173	496	△35,676	△260,872	△296,548

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、業務受注事業等を含んでおりま
す。
2. セグメント利益又は損失の調整額△260,872千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一
般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な減損損失)

「デジタルIP領域」セグメントにおいて、減損損失5,084千円を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	デジタルIP 領域	ライフス タイルIP領域	IP投資育成 領域	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	486,402	2,091,893	3,526	2,581,823	2,821	2,584,644	—	2,584,644
セグメント間 の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	486,402	2,091,893	3,526	2,581,823	2,821	2,584,644	—	2,584,644
セグメント利益 又は損失 (△)	△21,133	23,085	△42,161	△40,209	1,128	△39,080	△190,853	△229,934

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、業務受注事業等を含んでおりま
す。
2. セグメント利益又は損失の調整額△190,853千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一
般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、企業実態を正確に表すために、事業セグメントにIP投資育成領域を追加すると
ともに、他の2つの事業セグメントにおきましても、デジタルIP領域(旧モバイルゲーム事業)およびライフス
タイルIP領域(旧キッチン雑貨事業)に事業セグメント名を変更しております。そのため、前第3四半期連結累
計期間のセグメント情報は、変更後の方法に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

(連結子会社の新設分割及び株式譲渡によるライセンスIP事業の一部譲渡(子会社の異動))

当社は、2023年11月10日開催の臨時取締役会において、以下のとおり、連結子会社である株式会社X-VERSE（旧株式会社モブキャストゲームス。以下「X-VERSE」）の既存ライセンスIP事業（旧IPプロデュース事業）の一部（以下、「対象事業」）を会社分割（新設分割）により新設会社に承継（以下、「本会社分割」）させること、及び本会社分割により分割会社であるX-VERSEに割り当てられた新設会社の株式を剰余金の配当として当社が交付を受けたうえで、当該新設会社の株式の全部を株式会社テンダ（以下「テンダ」）に譲渡（以下、「本株式譲渡」）することを決議いたしました。

1. 本取引の目的

当社グループは2022年以降、経営資源をグループIPビジネスへ集中させ、新たなIP（知的財産）をクリエイターと共につくりだし持続的なグループ循環の実現を目指す「クリエイター共創経営」を重要なグループ戦略と位置付けております。

X-VERSEは、厳選したアニメ等のライセンスIPを使ってゲーム等のデジタルコンテンツのプロデュースを行なってきました。しかし、欧米や中国などグローバル規模でモバイルゲーム市場が開発費の暴騰や人気ライセンスIPの獲得競争激化など、売れるゲームの開発がより困難になっております。このような状況下X-VERSEは、グループ戦略を基に、ライセンスIPを使用したモバイルゲームだけでなく、進化するテクノロジーに対応し、メタバースのようなバーチャル空間やWeb3.0にインパクトを与える自社IP創出を加速することを新たな成長戦略の中核とし、現在はエンターテインメントの潮流を見極め、VTuberや電子漫画など多様なジャンルでの自社IP創出にチャレンジしております。

一方で、当社グループならびにX-VERSEの成長戦略を追求するにあたり、戦略に沿わない既存事業であるライセンスIP事業に対して経営資源の投入は制約していくと戦略的判断に至り、ゲームユーザー様への影響、社外関係先および社内リソース配分等を踏まえ、今後の事業継続の検討を進めておりました。そのような中、テンダは、新規事業としてライセンスIP事業の確立を目指しており、モバイルゲーム等のライセンスIPタイトルをテンダへ譲渡することは、ユーザー様、社外関係先への影響を最小範囲に抑えられると判断し、本譲渡をおこなうことを決定いたしました。

譲渡にあたっては、X-VERSEが2023年12月25日付で100%子会社である株式会社X-VERSE PLUS（以下「X-VERSE PLUS」）を設立し、同日を効力発生日（予定）としてX-VERSE PLUSへ対象となるゲームライセンスIPタイトル等を新設分割の方式により移管し、2024年1月1日（予定）にX-VERSE PLUSの全株式をテンダへ譲渡するものです。

2. 会社分割及び株式譲渡の要旨

(1) 会社分割及び株式譲渡の日程

株式譲渡契約締結日	2023年11月10日
代表取締役による新設分割計画書の決定 (X-VERSE)	2023年11月10日
新設分割計画承認株主総会決議日 (X-VERSE)	2023年12月22日
会社分割効力発生日	2023年12月25日
株式譲渡日	2024年1月1日

(2) 会社分割の方式

X-VERSEを分割会社とし、新設会社に対して対象事業を承継させる新設分割とします。

(3) 会社分割に係る割当ての内容

新設会社は本会社分割に際して、普通株式 1,000株を発行し、その全株式を分割会社であるX-VERSEに交付します。なお、分割会社であるX-VERSEは、新設会社から交付された株式の全てを、本会社分割の効力発生日に、会社法第763条第1項第12号ロの規定に基づき、当社に対して剰余金の配当として割り当てます。

(4) 会社分割により増減する資本金

本会社分割による分割会社であるX-VERSEの資本金の増減はありません。

(5) 新設会社が承継する権利義務

新設会社は、分割会社であるX-VERSEから、本会社分割の効力発生日における対象事業に属する資産、負債その他の権利義務を承継いたします。

(6) 株式譲渡の概要

当社は2024年1月1日をもって、新設会社の株式の全部をテンダに譲渡する予定です。新設会社の概要については「3. 本会社分割の当事会社の概要」をご参照ください。また、株式譲渡先であるテンダについては「6. 新設会社株式の譲渡先の概要」をご参照下さい。

3. 本会社分割の当事会社の概要

	分割会社 (2023年11月10日現在)	新設会社 (2023年12月25日設立予定)	
(1) 名称	株式会社X-VERSE	株式会社X-VERSE PLUS	
(2) 所在地	東京都港区六本木六丁目8-10	東京都港区六本木六丁目8-10	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 数馬 幹彦	代表取締役 数馬 幹彦	
(4) 事業内容	IPを用いたゲーム及びデジタルコンテンツ等のプロデュース事業	IPを用いたゲーム及びデジタルコンテンツ等のプロデュース事業	
(5) 資本金	10,000千円	5,000千円	
(6) 設立年月日	2018年2月15日	2023年12月25日(予定)	
(7) 発行済株式数	2,512株	1,000株	
(8) 決算期	12月31日	12月31日	
(9) 大株主および持株比率	株式会社モブキャストホールディングス 100%	X-VERSE 100%(※)	
(10) 上場会社と当該会社との関係	(資本関係) 当社100%出資子会社であります。	(資本関係) 本会社分割の効力発生日に分割会社が新設会社の株式の100%を保有しますが、2024年1月1日付で当該株式の全部をテナダに譲渡いたします。	
	(人的関係) 当社の従業員が当該会社の代表取締役を兼務しております。	(人的関係) 当社の従業員が当該会社の代表取締役を兼務しております。	
	(取引関係) バックオフィス業務として役務提供等をおこなっております。	(取引関係) 該当事項はありません。	
(11) 分割会社の最近3年間の経営成績及び財政状態			
決算期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期
純資産(千円)	116,752	▲224,274	▲5,625
総資産(千円)	1,092,199	515,452	456,885
1株あたり純資産(円)	313,852.00	▲602,888.49	▲2,239.29
売上高(千円)	2,930,869	1,751,204	776,973
営業利益(千円)	▲117,128	57,121	▲26,213
経常利益(千円)	▲174,755	50,622	▲29,637
当期純利益(千円)	▲660,731	▲341,027	▲70,250
1株あたり当期純利益(円)	▲2,188,685.82	▲916,740.49	▲48,717.46
(12) 新設会社の最近3年間の経営成績及び財政状態	設立日が2023年12月25日と、当該新設会社の経営成績及び財政状態については確定した事業年度がないため、該当事項はありません。		

※新設会社は本会社分割に際して、普通株式1,000株を発行し、その全株式を分割会社であるX-VERSEに交付します。なお、分割会社であるX-VERSEは、新設会社から交付された株式の全てを、本会社分割の効力発生日に、会社法第763条第1項第12号ロの規定に基づき、当社に対して剰余金の配当として割り当てます。

4. 分割する事業部門の概要

(1) 分割する事業内容

ライセンスIP事業

(2) 分割する事業の経営成績

売上高 107,458千円 (2022年12月期)

(3) 分割する資産、負債の項目および金額 (2023年9月末現在)

資産の部		負債の部	
流動資産	111,540千円	流動負債	101,540千円
資産合計	111,540千円	負債合計	101,540千円

5. 本会社分割後の状況

本会社分割後のX-VERSEの名称、所在地、資本金、決算期の変更はありません。その他、新設会社の商号、所在地、代表者、事業内容、資本金、決算期については、「3. 本会社分割の当事会社の概要」をご参照下さい。

6. 新設会社株式の譲渡先の概要 (2023年5月31日現在)

(1)	名称	株式会社テンダ		
(2)	所在地	東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号		
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役会長CEO 小林 謙		
(4)	事業内容	ITソリューション事業 ビジネスプロダクト事業 ゲームコンテンツ事業		
(5)	資本金	306百万円		
(6)	設立年月日	1995年6月1日		
(7)	大株主及び持株比率	株式会社KFC 53.74% 小林 謙 6.63% 加藤 善久 6.45%		
(8)	当社と当該会社との関係	資本関係	本会社分割の効力発生日に当社が新設会社の株式の100%を保有していますが、同日付で当該株式の全部を当該会社に譲渡いたします。	
		人的関係	該当ありません。	
		取引関係	該当ありません。	
(9)	当該会社の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態			
	決算期	2021年5月期	2022年5月期	2023年5月期
	純資産(千円)	1,002,514	2,078,501	2,289,696
	総資産(千円)	1,875,815	3,004,251	3,221,969
	1株当たり純資産(円)	543.96	958.76	1,055.40
	売上高(千円)	2,985,190	3,509,022	4,235,205
	営業利益(千円)	342,115	373,085	455,284
	経常利益(千円)	336,305	359,359	436,931
	親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	223,916	240,167	266,735
	1株当たり当期純利益(円)	121.50	113.85	122.95

7. 譲渡株式数、譲渡価額及び譲渡前後の所有株式の状況

(1)	異動前の所有株式数	1,000株 (議決権の数：1,000個) (議決権所有割合：100.0%)
(2)	譲渡株式数	1,000株
(3)	譲渡価額	50,000千円
(4)	異動後の所有株式数	— 株 (議決権の数：0個) (議決権所有割合：0.0%)

8. 今後の見通しについて

2023年12月期業績に関しては、影響は軽微であります。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2015年12月期より8期連続して営業損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことから、継続企業の前提に関する疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。

当社グループは、当該状況を改善すべく、経営戦略の見直しと継続的な黒字計上及び財務状況の改善のための経営改善策を進めております。当該状況を解消、改善するための対応策につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主要な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載のとおりです。これらの対策が計画どおりに進捗しなかった場合、当社グループの事業に支障を来す可能性があります。

なお、文中の将来に関する事項は当第3四半期連結累計期間において当社グループが判断したものであります。